

# 学生団体 Change 2019 年度活動報告書

Change

(執筆者名前 稲畑季代)

## 1. 概要

学生団体 Change は人と人とのつながりを重視し、多世代交流を目的として活動する団体である。主な活動としては、姫路市岡田地区をフィールドとし、子どもの居場所をつくる「放課後 house」を行っている。また、現在は姫路市以外の地域と連携したプロジェクトを企画するなど、活動の幅を広げている。

## 2. 紹介

この団体は 2019 年 6 月に誕生し、多世代交流を目的とした活動を行っている。具体的には、多世代交流を実現するために「人とつながる場所を作りたい」という想いで活動している。また、団体活動を通して様々な経験を積み重ねていくことで、地域の成長だけでなく大学生自身もスキルアップしていくことを目標としている。

「放課後 house」というプロジェクトは、姫路コミュニティスペース「はこプラス」を拠点として、毎週水曜日に実施している。これまでのプロジェクト内容として、子どもたちと一緒に県立大環境人間キャンパスへの大学探検や、姫路科学館への遠足、食品添加物についての科学実験など様々なことを行ってきた。このように、学生団体 Change は何か 1 つに特化した団体ではないからこそ、子どもたちがやりたいと思うことだけでなく、私たち大学生がやってみたいと思うことも実現できる可能性を持っている。これからの活動においても、このような Change の可能性を活かして様々な取り組みをしていきたいと考えている。

## 3. 放課後 house

『放課後 house』プロジェクトは 2019 年 7 月、Change 第一弾の活動として始動した。このプロジェクトの目的は①子どもたちの居場所づくり②子どもたちの創造力・考える力を養うことである。家や学校でない第三の居場所の提供と、大学生と子どもとのナナメの関係を形成することで、多様な価値観に対する理解を深め、コミュニケーション能力の向上を図る。また、日々の活動において子どもたち自身で準備から実践までを行うことで、自ら考える力を養い習慣化させることを目的としている。

具体的な活動例としては 10 月に通学路マップを作成した。まずは通学路を歩き各人で地図を作成し、好きなように標識などを書き入れてもらった。その後発見した標識を付箋に描き、地図に張り付け

オリジナル防犯・防災マップを作製した。まちあるきを通して通学路の危険を見直し、マップ作りの際に標識について子どもたち主体で学ぶことができた。

また、単に危険な場所やこども 110 番の家を見つけるだけでなく、通りすぎる高齢者とのコミュニケーションや「昔ながらの家が多いね」など子どもたち自身の気づきにより、自分たちの住んでいる地域を改めて知る機会となった。

## 4. これから

現在実施しようとしているプロジェクトは、多可町スポッ娘スクールと合同で行い、姫路と多可町を行き来して互いの地域を知るというものである。姫路地域(特に姫路城周辺)では、『外国人観光客が多い』という特性から、子どもたち自ら外国人の方へインタビューや会話を行いながら姫路城まで案内するというイベントを企画している。外国人と会話する機会を子どもたちと作ると同時に、互いに地域を紹介しあう中で自分たちが住む地域への理解を深めることを目的としている。

図 1:大学探検



(出所) Change 公式 Twitter



図 2:まちあるき

(出所)Change 公式 Twitter